

京都における日本画新人賞
「京都 日本画新展 2025」
受賞作品の決定および作品展の開催について

2024 年 12 月 19 日
「京都 日本画新展」運営委員会

西日本旅客鉄道株式会社では、京都新聞と共同主催で日本画を志す、創造性あふれた若い人材の活動を奨励し、京都の文化の発展に寄与することをめざし、2008 年度から 17 年にわたり、京都における日本画新人賞「京都 日本画新展」を開催しています。

このたび、以下のとおり「京都日本画新展 2025」（2024 年度）の受賞作品が決定するとともに、京都の文化振興の取り組みの一つとして、また多くの皆様に日本画文化をお伝えする場として、「京都 日本画新展 2025」作品展を開催致しますのでお知らせします。

1 受賞作品 （作品紹介別添）※年齢は 2024 年 11 月 11 日現在、地名は出生地、敬称略

（1）大 賞： 1 点（賞金 30 万円）

- 作者名 竹下 麻衣（たけした まい） 24 歳 京都府京都市
○作品名 Laundry basket にて宝探しをする

（2）優秀賞： 2 点（賞金 10 万円）

- 作者名 紫嵐(藤田真弥) （しらん） 35 歳 兵庫県神戸市
○作品名 小満の歓

- 作者名 田口 涼一 （たぐちりょういち） 43 歳 兵庫県三田市
○作品名 Sound of Silver -万華-

（3）奨励賞： 3 点

奨励賞・京都府知事賞

- 作者名 西田 鳩子（にしだ はとこ） 31 歳 京都府福知山市
○作品名 家路

奨励賞・京都市長賞

- 作者名 高野 純子（たかの じゅんこ） 38 歳 大阪府守口市
○作品名 息吹

奨励賞・京都商工会議所会頭賞

- 作者名 千坂 尚義（ちさか ひさよし） 30 歳 京都府京都市
○作品名 有霊論と丹後由良海景

(全体総評)

全ての作品に異なる表現技法の違いこそあれ、全精力を注いだからこそ生まれる確かなメッセージが感じられた。作者たちは普遍的な造形美を探求したり、古典絵画の平面性に触発されたりする等、創作の原点となる発想や表現技法は多岐に及んでいる。今後もその芸術性と造形性を追求する姿勢を持ち続けて欲しい。

2 作 品 展

作品展の名称：「京都 日本画新展 2025」

日時：2025 年 2 月 7 日（金）～2 月 16 日（日） 計 10 日間

午前 10 時～午後 7 時 30 分（最終日は午後 5 時まで）

※会期中無休 入館は閉館の 30 分前まで

会場：美術館「えき」K Y O T O（ジェイアール京都伊勢丹 7 階隣接）

入館料：無料

内容：出品作品全 30 点と推薦委員の 6 点の作品

3 出品作家によるギャラリートーク

日時：2025 年 2 月 8 日（土）・9 日（日）・15 日（土）・16 日（日）等を予定（※）

会場：美術館「えき」K Y O T O（ジェイアール京都伊勢丹 7 階隣接）

入館料：無料

内容：作品展内で出品作家が自身の展示作品の解説を行います。作品の背景や作家の思いなど、作品展や作品の新たな見方や楽しみ方が広がる機会です。

※詳細はホームページ等でお知らせします。

(<http://event.kyoto-np.co.jp/event/shinten2025.html>)

4 授 賞 式

日時：2025 年 2 月 13 日（木）午後 6 時

会場：ホテルグランヴィア京都

※取材申し込みは、下記連絡先へお願いいたします。

5 事業の概要

別紙 1 参照

作品紹介別添

○大賞 竹下 麻衣 (たけした まい)

『Laundry basket にて宝探しをする』



コメント

子どもがランドリーバスケットにおもちゃを入れた。おもちゃが見えたり隠れたり見つけたり拾ったり、宝探しをしているようだ。

素材：綿布、岩絵具、水干絵具、箔、
パステル

○優秀賞 紫嵐(藤田真弥) (しらん)

『小満の歓』



コメント

「小満」とは、5月20日頃、枇杷の実が熟す時期。夕暮れ時、陽に染まった枇杷の実が一層黄みを増して輝きます。「待ってました！」とばかり一斉に集まったムクドリたちの聲や梅雨に入る前の空気には歓喜のような生命の豊かさとエネルギーを感じます。

素材：紙本着彩、高知麻紙、岩絵具、水干絵具、膠

○優秀賞 田口 涼一 (たぐち りょういち)

『Sound of Silver -万華-』



コメント

『もしきみがどこかの星の花が好きなら 夜 空を見上げると最高にたのしいよ 花がいっぱいだから 』サン=テグジュペリ作 内藤濯訳「星の王子さま」(岩波書店) 大切なことは目に見えないことであると実感する毎日です。そのような夜の空を銀箔、焼箔で表現しました。

素材：麻紙等、純金箔、純金泥、
焼箔、耐変色性銀箔、銀泥

○奨励賞・京都府知事賞 西田 鳩子（にしだ はとこ）

『家路』



コメント

今日も仕事をし、一生懸命生きて、うまくいったこともいかなかったこともお腹に抱え、あかりの点く家に帰ります。「私」にほどけていく帰り道を描きました。

素材：麻紙、ピグメント、岩絵具

○奨励賞・京都市長賞 高野 純子（たかの じゅんこ）

『息吹』



コメント

シマウマの日常の姿を通して、草むらが所々光って見えるような強い日差しや、かすかな草の香り、それらの周りの気配と呼応するように、混ざり合うように、ただ確かに存在するシマウマの息づかいが感じられるものを表したいと思って描きました。

素材：麻紙、墨、胡粉、水干絵具、岩絵具、金泥

○奨励賞・京都商工会議所会頭賞 千坂 尚義（ちさか ひさよし）

『有霊論と丹後由良海景』



コメント

普段「色織」という色と心をテーマにした絵巻物を作っております。物語で重きを置いているのが日本のアニミズムの世界観で、私の生まれた由良の海や木や神社などで培われた感性と共鳴しています。今回は尊敬してやまない由良の海をなるべくそっくりになるよう工夫し描きました。裏打ちから表装まで全て自分で拘り作っております。

素材：和紙、布、木材、墨、胡粉、手作りの絵具、藍

「京都 日本画新展 2025」の概要

1 事業の趣旨

京都における日本画は、「京都画壇」として多くの人材を輩出し、今日に至っています。また、日本画の世界を通じて育った人材は、京都に伝来する美術、工芸、産業振興に広く深くかわり、その基礎的部分を形成しています。

「京都 日本画新展」、そして「続(しょく)『京都 日本画新展』」を通して、日本画を志す若手作家たちが、生き生きと日本画を描くことを応援し、その活躍の場のひとつを提供してまいりました。

2018 年度から、京都府、京都市、京都商工会議所が共催となり、「京都全体で本展に取り組む」ことをめざしています。そして推薦委員には現在、芸術大学で教鞭をとられている方々を起用し、より幅広い、多様な出品者が期待され、また新しい選考委員のもと、多角的な視野から作品審査を行っています。

伝統と文化、そして大学の街・京都の特性を最大限に生かし、引き続き日本画を志す若手作家とともに、京都ならではの日本画展をめざします。

2 主催者等

- 主 催 西日本旅客鉄道株式会社、京都新聞
- 共 催 京都府、京都市、京都商工会議所
- 後 援 京都府教育委員会、京都市教育委員会、K B S 京都、エフエム京都

3 運営体制

(1) 推薦委員 (50 音順、敬称略)

- 石 股 昭 (奈良芸術短期大学教授)
- 雲 丹 亀 利 彦 (京都精華大学教授)
- 大 沼 憲 昭 (嵯峨美術大学名誉教授)
- 川 嶋 渉 (京都市立芸術大学教授)
- 西 久 松 吉 雄 (成安造形大学名誉教授)
- 村 居 正 之 (大阪芸術大学教授)

※出品作家の推薦は 2024 年 5 月上旬に行ないました。

(2) 選考委員 (50 音順、敬称略)

内田 あぐり	(日本画家、武蔵野美術大学名誉教授)
大野 俊明	(日本画家、成安造形大学名誉教授)
澤田 瞳子	(小説家、同志社大学客員教授)
下出 祐太郎	(蒔絵師、京都産業大学名誉教授)
村上 良子	(紬織作家、重要無形文化財保持者)

4 企画概要

(1) 参加概要

○原則として、京都を中心に活動している、あるいは京都にかかわりの深い概ね 25 歳から 45 歳の日本画家を対象に、推薦委員が出品依頼候補者を選出し、本人の参加意思を確認の上で出品を要請、今回は 30 名が出品。(選考対象は 29 作品)

<参考>出品作品数

「京都 日本画新展」

第 1 回 37 名、第 2 回 38 名、第 3 回 37 名、第 4 回 37 名、第 5 回 38 名

続「京都 日本画新展」

第 1 回 39 名、第 2 回 38 名、第 3 回 38 名、第 4 回 38 名、第 5 回 39 名

「京都 日本画新展」

2019 40 名、2020 40 名、2021 39 名、2022 33 名、2023 30 名、2024 30 名

○出品依頼候補者の選出に当たっては、京滋の美術系大学を中心として、日本画の継承に尽力する現場教員などと情報交換の機会を得て、推薦対象を積極的に拡大。

○大賞 1 点 (賞杯と賞金 30 万円)、優秀賞 1～2 点程度 (賞杯と賞金 10 万)、奨励賞・京都府知事賞、京都市長賞、京都商工会議所会頭賞 (賞状)。

※大賞・優秀賞者を除く出品者全員に奨励金として 5 万円支給。

(2) 作品の条件

- ・額装、軸装、屏風装 (屏風装の場合二曲一隻のみ可) のいずれかとする
- ・額装の場合、額縁幅は片側 70 mm 以内、軸装は壁面に掛けられるものとする
- ・作品の大きさは、80 号 M (1455 mm× 894 mm) 以上から 100 号 S (1620 mm×1620 mm) 程度、厚みは 100 mm 以内 (額装を含む)

5 事務局

京都新聞 C O M 事業推進局開発推進部 〒604-8567 京都市中京区烏丸通夷川上ル
TEL:075(255)9757/FAX:075(255)9763 (平日の午前 10 時-午後 5 時)
作品の画像を希望される方は、事務局にお問い合わせください。